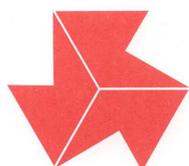


令和3年度
長野県高等学校総合体育大会
剣道大会

結

アログレス



高校総体

前進しよう・向上しよう・飛躍しよう

日時	令和3年6月4日(金) 6月5日(土) 6月6日(日)
会場	南長野運動公園体育館
主催	長野県高等学校体育連盟 長野県教育委員会
共催	(公財)長野県スポーツ協会 (一財)長野県剣道連盟
後援	長野市教育委員会 信濃毎日新聞社
主管	長野県高体連剣道専門部

県高体連ホームページ <http://www.ngn-hssp.org>

メール koutairen@ngn-hssp.org

問合せ先 剣道専門委員長 榛葉 亨(南安曇農業高校)

TEL 0263-72-2139

令和3年度 長野県高等学校総合体育大会剣道大会役員表

名誉会長	長野県知事	阿部 守一
名誉顧問	長野県副知事	太田 寛
		小岩 正貴
大会会長	長野県高等学校体育連盟会長	小林 武広
大会副会長	長野県高等学校体育連盟副会長	宮本 隆
		新津 英人
		小幡 正樹
		埋橋 浩
		杉村 修一
	長野県高等学校体育連盟剣道専門部長	城田 真之
顧問	長野県教育委員会教育長	原山 隆一
	長野県教育委員会教育委員	伏木 久始
		矢島 宏美
		荻原 健司
		塚田 裕一
		中澤 眞弓
	長野県教育委員会事務局教育次長	尾島 信久
	(公財)長野県スポーツ協会副会長	今井 義明
		小林 武広
		小坂 壮太郎
		児玉 幹夫
		萩原 清章
		林 泰章
(一財)長野県剣道連盟会長	原山 隆一	
長野市長	加瀬 浩明	
	加藤 久雄	
参与	長野県教育委員会事務局参事兼高校教育課長	服部 靖之
	長野県教育委員会事務局スポーツ課長	北島 隆英
	(公財)長野県スポーツ協会理事長	林 泰章
	(公財)長野県スポーツ協会専務理事	茅野 繁巳
	(公財)長野県スポーツ協会事務局長	伊東 一雄
	(一財)長野県剣道連盟副会長	折口 築
		藤極 清隆
		北原 一正
	長野市教育長	依田 房生
長野県高等学校体育連盟加盟高等学校長〔氏名省略〕	丸山 陽一	
大会委員長	長野県高等学校体育連盟理事長	大谷 雅亮
大会副委員長	長野県高等学校体育連盟副理事長	矢野 清隆
		島崎 剛
		鷹野 俊幸
		島崎 貴史
	長野県高等学校体育連盟剣道専門委員長	榛葉 亨
委員	長野県教育委員会事務局スポーツ課企画幹兼課長補佐兼管理係長	沼澤 由憲
	長野県教育委員会事務局スポーツ課教育主幹兼学校体育係長	小林 秀樹
	長野県教育委員会事務局スポーツ課教育主幹兼体育スポーツ振興係長	田島 康彦
	長野県高等学校体育連盟剣道専門委員	朝田 将幸
		藤原 慎吾
長野県高等学校体育連盟理事〔氏名省略〕	木下 孝繁	

審判・係表

大会長	城田 真之							
審判長	青柳 俊幸							
副審判長	榛葉 亨							
競技委員長	榛葉 亨							
競技委員	朝田 将幸	藤原 慎吾	木下 孝繁	市村 涉	松田 健一			
審判員	北村 泰光	竹内 訓好	佐藤 勉	飯島 咲希	宮崎 浩			
	大草 務	有坂 清明	竹内 泰久	松島 晴康	神津 純			
	山岸 禅	飯島 涼太	柳澤 剛	河面 佑	矢野 博之			
	高柳 剛士	若林 康彦	前嶋 耀	山口 雅子	仁木 良子			
	酒井 博	鈴木 英介	仁木 邦彦	神津 純	武田 朋大			
	細野 雅也	丹羽 貴	小平 一	安部 博文	目須田威彦			
	八幡 大輔	小町屋良一	本島 尚之	小平 紀文	後藤 将史			
	西澤 佳志	鎌原 央典	藤原 一史	今井 裕敬	中島 和成			
	堀金 猛	中体連・剣道連盟審判員						
試合場主任	桐生 賢蔵	藤巻 靖	宮沢 悠太	藤松 健介	松村知佳良			
	吉田 正紀	小林 真史	横川 憲					
救護	長野県高体連剣道専門部							
検量	松島 晴康	飯島 咲希	山岸 禅	飯島 涼太				
記録	市村 涉	朝田 将幸	藤原 慎吾	木下 孝繁				
受付	宮崎 好正	田村 啓一	竹内 泰久	柳沢 剛				
会場	朝田 将幸							
報道	木下 孝繁	市村 涉						
補助員指導	朝田 将幸	(長野日大 長野商業 松代 長野西 松商学園)						

試合運営事項

足袋・サポーター使用について

- ・床の接地面に皮・合皮・ゴムは不可。

試合進行について

- ・昼食時間は、密を避けるため特に時間を設けません。空き時間を使い取るようにお願いします。
- ・表彰式は各部門が終了次第行います。
- ・試合はトーナメント戦とし、団体戦、個人戦とも三位決定戦を行なう。
- ・審判目合せは個人戦 2 試合終了後、団体戦 1 試合終了後、試合場ごとに実施する。
場合によっては、上記以外に目合わせを行うこともある。(二日目・三日目同様)

試合方法について

- ・「新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合審判法」により実施する。
- ・個人戦 4分3本勝負 時間内に勝敗が決しない場合、2分ごとの延長戦を行う。2分ごとの休息として呼吸を整えさせる。(選手は立礼の位置まで下がる)
延長戦が8分終了するごとに、給水など面を外しての休憩を行う。
休憩はおおよそ4分間とし、4分後には試合が開始できるようにする。休憩の場合審判員は一度控え席に下がる。
- ・団体戦 4分3本勝負。時間内に勝敗が決しない場合は引き分けとする。
代表戦の場合、4分1本勝負。勝敗が決しない場合2分ごとの延長戦を行う。(個人戦同様)

竹刀の検量について

- ・検量は本年度については、新型コロナウイルス感染防止対策として、各校監督が責任を持って竹刀の検量を行い、所定の用紙に必要事項を記載し届け出る。届け出時に竹刀を持参し検印を受ける。
- ・竹刀には校名・氏名を明記すること。模様付鏝・滑り止め加工の柄の使用は禁止します。
- ・検量は一人2本としてください。追加は試合当日日本部対応します。

・検量受付を4日(個人戦出場者)10時15分～10時45分

5日(男子)・6日(女子)8時45～9時15分で竹刀検量の届け出を行います。

団体戦の検量受付は各高校試合会場前で届け出をおこなってください。

5人に満たないチームとの対戦は、対戦校が不戦勝ちとする場所を指定する。なお登録が5人であって、試合開始時に欠員がでた場合も上記と同様とします。

日 程

6月 4日(金)		6月 5日(土)・6日(日)	
開場(選手)	10:00	開場(選手)	8:30
検量開始	10:15	検量開始	8:45
審判・監督者会議	10:45～11:15	審判・監督者会議	9:15～9:45
開始式	12:10	開始式	10:40
競技開始	12:30	競技開始	10:50
表彰式(各部門が終了次第)		表彰式(各部門が終了次第)	

〔練習会場及び練習時間〕

試合会場にて、試合前及び試合終了後決められた時間実施可能。

6月4日(金)

- ・個人戦女子出場者は11時20分～12時00分とし個人戦男子出場者は女子個人戦終了後40分間実施可能。
- ・男女団体戦出場者は個人戦終了後実施可能となりますが、男子、女子の順に時間を分けて行います。時間については、試合終了後に連絡をいたします。

6月5日(土)

- ・男子団体戦出場者は試合開始前9時50分～10時30分実施可能。
- ・女子団体戦出場者は試合終了後実施可能。試合終了後時間については連絡をいたします。

6月6日(日)

- ・女子団体戦出場者は試合開始前9時50分～10時30分実施可能。

【6月 4日(金)】

第1試合場	第2試合場	第3試合場	第4試合場
女子個人戦 1～4、17、18 25、29	女子個人戦 5～8、19、20 26 決勝戦	女子個人戦 9～12、21、22 27、30 3位決定戦	女子個人戦 13～16、23、24 28
男子個人戦 1～4、17、18 25、29	男子個人戦 5～8、19、20 26 決勝戦	男子個人戦 9～12、21、22 27、30 3位決定戦	男子個人戦 13～16、23、24 28

【6月5日(土)】

第1試合場	第2試合場	第3試合場	第4試合場
男子団体戦 1～4、17、18 25、29	男子団体戦 5～8、19、20 26 決勝戦	男子団体戦 9～12、21、22 27、30 3位決定戦	男子団体戦 13～16、23、24 28

【6月6日(日)】

第1試合場	第2試合場	第3試合場	第4試合場
女子団体戦 1～3、13、14 21、25	女子団体戦 4～6、15、16 22 決勝戦	女子団体戦 7～9、17、18 23、26 3位決定戦	女子団体戦 10～12、19、20 24

大会の会場への入場について

- ・大会は無観客でおこなう。
- ・会場へは、役員、選手、監督、補助員とする。選手以外の3年生については入場を許可するが、ギャラリーにて観戦とし、試合会場には入れない。
- ・試合のある選手のみ試合会場に入場し、その他の選手等については試合会場に下りず、ギャラリーにて待機するようにしてください。

選手以外の1、2年生は体育館等施設への入場はできません。

個人戦...選手・監督のみが試合場に入れます。

団体戦...男女別で登録選手・監督が試合場に入れます。

(新型コロナウイルス感染拡大防止対策にご協力ください)

- ・練習については、登録選手のみとし、試合会場での実施となるため、短時間で、譲り合って行うようにしてください。
- ・個人戦出場者が1名の場合は、練習相手として1名付けることができる。その他はメインアリーナギャラリーにて待機する。
- ・各自でゴミ袋を用意し、ゴミはすべて持ち帰ってください。 ゴミ袋の持参をお願いします。
- ・下足は各自でビニール袋を用意し、各自で管理をしてください。
- ・監督・顧問・外部指導者の方は、背広・ネクタイで試合場へ入って下さい。
- ・ギャラリーでは密にならないよう座席を1席空け、譲り合って座るようにしてください。
- ・剣道具等の荷物については、座席におかず、整理してギャラリー通路に置くようにしてください。
- ・男子の更衣はギャラリーを使用する。女子更衣室は混雑が予想されることから、密にならないように譲りあって使用する。なお、試合の終了した選手は直ちに着替え、帰り支度をするようにし早めに解散してください。選手は、できる限り着替えて会場に入るようにしてください。
- ・アリーナ南側の駐車場については、役員、審判員、監督を優先とし、その他の方については北側の駐車場をご利用ください。(マイクロバスも北側の駐車場へ)
- ・参加者確認票は、必要事項を記載し顧問が集め、入場時受付にて確認を受けてください。受付は顧問1名のみとし、確認後選手の入場となります。
大会中参加者確認票は顧問が管理し、全ての参加者確認票を大会終了時に本部に提出してください。大会終了から2週間専門部にて管理いたします。

(今後の大会について)

- ・全国高校総体について
本大会の個人戦男女上位2名、団体戦は優勝校が令和3年8月9～12日石川県金沢市で行われる大会に出場する。
- ・北信越大会について
本大会の個人戦男女上位8名、団体戦は男女上位4チームが、令和3年6月18～20日石川県加賀市で行われる大会に出場する。1チーム3名以上で出場可。

令和3年度長野県高校体育連盟総合体育大会剣道大会実施に関する
『新型コロナウイルス感染拡大防止対策』連絡事項（重要）

【大会運営】

1. 以下に該当する者は出場（関係者は参加）できない。
基礎疾患のある者
 - ・基礎疾患のある者とは、「糖尿病、心不全、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、透析を受けている方、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている方など」をいう。
 - ・これらの者が理由あって出場（参加）する場合は、主治医の承認を得るものとする。発熱のある者（個人差があるが、一般的には37.5度以上ある者をいう）
咳・咽頭痛など風邪の様な症状がある者、その他体調がよくない者、同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
2. 選手並びに関係者は、大会2週間前から当日まで自宅で検温を行い、確認票に、氏名・住所・連絡先電話番号等を記録し、大会会場に持参する。
3. 選手は、面マスク及びいわゆる家庭用マスク（関係者は家庭用マスク）を持参する。選手は、試合時には面マスク、それ以外（試合開始までの待機中等）は家庭用マスクの着用を前提としている。試合時以外でも面マスクを着用する予定の選手は、面マスクのみの持参で可。審判員及び役員はマスクを着用、係員（受付、検量等）はマスク及びフェイスシールドを着用する。
4. 選手は試合中はマスク（鼻まで覆う）とマウスガードを必ず使用する。
5. 大会は無観客で行い、入場は、選手・監督・顧問・大会役員・係員等許可された関係者のみとする。大会関係施設への立ち入りも同様とする。
6. 選手並びに役員等関係者は常にフィジカル・ディスタンスを保つようにする。（人との距離を最低でも1m保つ）
7. 観覧席使用の場合は、3密を避けるため1席以上の間を空け座る。場所取りは行わず、荷物は所定の場所に置く。

【入場にあたって】

1. 選手並びに関係者は、自宅と大会会場との往復の際にはマスクを着用し感染予防に努める。
2. 着替えの際は、密集を避けるため、できるだけ家庭で着替えを行った上、入場する。更衣室では密にならないよう努める（荷物は所定の場所に置く）
3. 受付・施設入場・竹刀検量を行う際は係員の指示に従い、行列にならないよう他者との距離を十分保つ。
4. 大会会場に入場する全ての生徒、顧問、役員は「参加者確認票」に必要事項を記載し、提出する（選手・補助員は顧問が集めて提出）

確認票を持参しなかった者は、原則として入場できない。

無観客での大会のため、保護者・OB・OG・登録選手以外の1,2年生(補助員以外)は入場できない。

受付にて入場者全身体温測定を行う。(当日の朝検温をしている場合を除く)

大会で使用する全ての箇所については、入場を許可された者以外の立ち入りはできない。

5. 選手並びに関係者は、アルコール除菌液で細目に手指消毒を行う。また、細目に手洗いも行う(各学校または各自でアルコール除菌液を準備してさらに消毒の徹底を図る)。
6. 選手及び関係者は細目に手洗い・うがいを行う。

【試合及び審判方法】

1. 「新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合審判法」により実施する。
2. 審判員は、試合時マスクを着用する。
3. 審判員は、できる限り各自の審判旗を持参し使用する。個々の審判旗がない場合は消毒済みの審判旗を受け取り使用する。審判旗は共用しない。
4. 審判員の入場、位置、移動等については、全剣連からの資料を参照する。

【大会時間、内容】

1. 開閉会式は行わない。表彰式については部門ごと、試合が終了次第行う。
2. 県大会での試合順については、1日目男女個人、2日目男子団体、3日目女子団体とし、それぞれ決勝まで行う(地区大会については、地区ごとの現状に合わせて行う)。
3. 試合時間は、団体戦4分3本勝負。勝敗が決しない場合、延長戦は行わず引き分けとする。個人戦4分3本勝負。勝敗の決しない場合、2分の延長戦を行い、延長戦4回終了ごとに給水処置を行う(延長戦については2分ごと呼吸を整えさせるようにする)。
4. 「アップ練習」については、指定された場所、時間で行う。ただし、密にならないようにするため、出場選手のみ使用とし、短時間とする。

【その他】

1. 選手及び関係者は、ごみは必ず持ち帰る。使用したマスク、ティッシュ等は持参したビニール袋に入れ、封をして持ち帰る。
2. 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合、速やかに専門委員長に報告する(濃厚接触者の有無等について報告)。
3. 地区大会の開催が予定通り行われない場合には、県大会の出場校の出場枠の変更や個人戦、団体戦の期日変更等の対応をいたします。

地区大会は基本的に上記の内容に沿っておこなうが、各地区の現状に合わせて変更することもある。各地区の詳しい内容につきましては、プログラムにて確認してください。

令和3年度

公益財団法人 全国高等学校体育連盟剣道専門部 申し合わせ事項

下記の事項は、公式試合における全国高体連剣道専門部としての統一的な事項である。
特に全国大会（全国高校総体・全国選抜大会）においては、これを厳守することとする。

1 選手心得

- (1) 選手は気品のある態度で全力をあげて試合をする。
- (2) 選手の服装・竹刀・剣道具は、その安全性と公平性が保たれていること。規格外のものを使用したり、華美な装飾や細工等を施したりしないようにする。
- (3) 選手の服装は、紺（黒）または白の剣道着・袴とする。なお、刺繍等により華美にならないこと。
- (4) 試合者の目印に校名などを大きく目立つように入れてはいけない。目印を着ける時は折り返した二枚の長さが揃うように着ける。

2 引率責任者、監督の資格について

- (1) 引率責任者は、団体の場合は校長の認める当該校の職員とする。個人の場合は校長の認める学校の職員とする。また、校長から引率を委嘱された「部活動指導員」（学校教育法施行規則第78条の2に示された者）も可とする。但し、「部活動指導員」に引率を委嘱する校長は、都道府県高体連会長に事前に届け出る。
- (2) 監督、コーチ等は校長が認める指導者とし、それが外部指導者の場合は傷害・賠償責任保険（スポーツ安全保険等）に必ず加入することを条件とする。

付記：但し、各都道府県における規程があり、引率・監督者がこの基準より限定された範囲内であればその規程に従うことを原則とする。

3 監督心得

- (1) 監督の服装は、以下の通りとする。
 - (イ) 全国高校総体では、白シャツ、ズボン（白・灰色）または剣道着、袴（色は紺、黒、白のいずれか）とする。
 - (ロ) 全国選抜大会では、スーツ（ジャケット）、ネクタイ、または剣道着、袴（色は紺、黒、白のいずれか）とする。
- (2) 試合場に入ることができるのは、監督・選手・補欠のみとし、他の者の入場は厳禁する。

4 規則の運用および大会運営について

- (1) 試合はすべて一刀（一本の竹刀）にて行うものとする。二刀にての試合は認めない。
- (2) 全国総体での竹刀検量は、以下の要領で行う。
 - (イ) 監督の責任において検量本数を「竹刀検量申請書」により申請する。
 - (ロ) 事前に申請する竹刀の本数は選手一人当たり3本以内とする。

- (ハ) 全国総体においては、竹刀検量において規格外等により不合格となった竹刀を一時預かり、当該選手が所属する団体及び当該選手の試合が終了後返却する。
- (ニ) 大会期間中、破損等による追加の申請は破損した竹刀を持参のうえ「竹刀検量【追加】申請書」により申請する。
- (3) 鏢競り合いについて
- (イ) 試合者は、正しい鏢競り合いの攻防から10秒以内に技を出すか、または、相互に間合いを切って鏢競り合いを解消しなければならない。
正しい鏢競り合いとして以下に示す内容を審判の判定基準とし、この基準からはずれる場合は不当な鏢競り合いの反則とする。
- ① 手元が上った拳競り合いにならないようにし、手元を下げて相互に鏢元と鏢元を合わせて竹刀を交差させる。(このことを試合者同士が相互に努力して行うことを前提とする。)
- ② 鏢元で竹刀の表鍔を交差させる。(竹刀は右傾前方に傾ける。)
- ③ 瞬間的に裏交差はあり得るが、直後に表鍔側での交差に直さなければならない。
(先に裏交差した者や右拳を体の中心より左側において鏢競り合いをする者は反則の対象となる。)
- ④ 鏢競り合いは、相互に鏢元で圧力をかけ合っている状態とする。(相手の力を故意に吸収して体を密着させる行為は反則の対象となる。)
- (ロ) 審判員は、不当な鏢競り合いの「反則」を厳密に見極めるとともに、正しい鏢競り合いの攻防が10秒程度続いた場合、時間空費の「反則」または「分かれ」を見極める。
ただし、安易に「分かれ」をかけない。
- (ハ) 運用の詳細については、別紙<高校剣道一鏢競り合い改善>概要版(平成22年5月3日決定)による。
- (4) 不正用具を使用した時の罰則は試合規則17条・19条の通りであるが、個人戦と団体戦を含めて行う大会においては、両方に適用する。
- (イ) 団体戦・個人戦における不正用具使用者は、以後の試合に出場できない。団体トーナメント戦における補欠の出場は別に定めのない限り認める。
- (ロ) リーグ戦にあっては、不正用具使用者の総ての試合を負けとし、補欠の出場は認めない。
- (5) 団体戦において、補欠と交代した選手の再出場は認めない。(大会が2日以上の場合は全期間にわたって適用する。)但し、全国選抜大会においてはこの限りではない。
- (6) 全国大会団体戦の選手変更は以下の方法、条件内で認める。
- (イ) 監督会議前までに所定の届けを大会事務局へ提出する。
- (ロ) 変更する選手の人数は原則2名以内とする。
- (ハ) 全国総体で、選手変更する場合、先鋒から大将までのオーダーは変えられない。
- (ニ) 全国総体では、参加申込時の選手5名補欠2名に対し、新たな選手を入れる場合は補欠を飛び越して選手と直接変更することはできない。
- (7) 個人戦の時、自分の都道府県の生徒が出た時は審判員を交代する。また関係のあるチームの審判も行わないことが望ましい。
- (8) 予選リーグにおける引き分けの際は、その都度勝負を決定せずにそのリーグ終了後下記の順で勝敗を決め、また代表者戦を行う。
- (イ) チームの勝ち点による。(勝ち1点、分0.5点)

- (ロ) 勝者数による
- (ハ) 総本数による
- (ニ) 上記(イ)から(ハ)までで3チームの順位が決定しない場合は、代表者戦によるリーグ順位決定戦を以下の要領で行い当該リーグの1位を決定する。
- ① 代表者戦の対戦順は予選リーグ戦時の対戦順とする。ただし、1位チームが決定した後の試合は行わないものとする。
 - ② 代表選手は選手の安全面等に配慮し、代表者戦ごと変更することを可とする。
 - ③ 礼法については、代表者戦1巡目のみ当該の試合に出場した5人を整列させて行い、2巡目に入った場合は代表選手のための礼とする。
 - ④ 審判は予選リーグ戦時における当該の審判員が行う。
- (9) 代表者戦の選手は、当該の試合に出場した先鋒から大将までの5人の選手から選出する。但し、予選リーグにおいては補欠と交代した選手の再出場は認めない。代表者戦は一本勝負とする。
- (10) 団体戦・トーナメント戦において、チームの勝敗が決定した後の試合は延長戦を行わない。
- (11) 試合時間は、全国総体（団体戦・個人戦）、全国選抜大会ともに4分とする。延長戦については、以下のとおりとする。
- (イ) 全国総体の個人戦において、試合時間内に勝敗が決しない場合は、延長戦を行い、先に1本取ったものを勝ちとする。延長戦の試合時間は、4分とする。延長戦が継続する場合は、延長戦2回ごとに「休息」・「休憩」を交互に繰り返す。
- (ロ) 全国総体の団体戦における代表者戦において、試合時間内に勝敗が決しない場合は、延長戦を行い、先に1本取ったものを勝ちとする。延長戦の試合時間は、4分とする。延長戦が継続する場合は、延長戦2回ごとに「休息」・「休憩」を交互に繰り返す。
- (ハ) 全国総体の団体戦における代表者戦以外の延長戦は、試合時間を2分とする。試合時間内に勝敗が決しない場合は、引き分けとする。
- (ニ) 全国選抜大会において、試合時間内に勝敗が決しない場合は、延長戦を行わず、引き分けとする。ただし、代表者戦において、試合時間内に勝敗が決しない場合は、延長戦を行い、先に1本取ったものを勝ちとする。延長戦の試合時間は、4分とする。延長戦が継続する場合は、延長戦2回ごとに「休息」・「休憩」を交互に繰り返す。
- 付記：**(1) 勝敗の決するまで延長戦を継続する場合、延長戦2回ごとに「休息」と「休憩」を交互に繰り返すが、主審は試合者の疲労度等を観察し、さらに休息等の措置が必要と判断したら、「止め」を宣告し深呼吸等の措置をとることができるものとする。
「休息」…立礼の位置まで下がらせて深呼吸させる。
「休憩」…選手を選手席に戻し、面を外させて給水させる。試合再開までは4分程度を目途とする。審判員も一度審判員席に戻る。
- (2) 各都道府県の大会における「試合時間」と「延長戦の試合時間」については、原則として全国大会を基準とする。ただし、運営する大会により別に定めることはできるものとする。
- (12) 会場に各種旗（校旗、部旗、それに類するもの）の掲揚はしない。

5 事故の処理

選手が負傷した場合は、医師及び監督の意見を聞いた上、審判主任と審判員の4名が審判長の了解を得て試合継続の可否について決定する。試合の継続が決定した後、原則として5分以内に試合を再開する。

6 大会参加資格について

- (1) (公財) 全国高等学校体育連盟の定める「全国高校総体開催基準要項の大会参加資格」による。
- (2) (公財) 全国高体連剣道専門部の定める「外国人留学生の出場枠」(下記)による。
 - ① 学校教育法第1条に規定する高等学校に卒業を目的として入学している生徒であること。
 - ② 在籍校が、各都道府県高体連剣道専門部に加盟していること。
 - ③ 年齢は平成14年4月2日以降に生まれた者とする。ただし出場は同一競技3回までとし、同一学年での出場は1回に限る。
 - ④ 短期留学は除く。
 - ⑤ 上記①から④の条件を総て満たしている者に限り、以下の出場枠で参加を認める。
団体戦・・・補欠を含めた7名中の2名以内の出場枠とする。
個人戦・・・参加制限をしない。

7 試合放棄に対する措置について

全国高校総体、全国選抜大会において試合放棄が行われた場合、原則として以下の措置をとる。試合放棄とは事故や負傷などによる棄権ではなく、運営や判定に対する不満により、試合を一方的に放棄した場合をいう。

- (1) 試合放棄の事実確認及び事情聴取
審判長または審判主任は、監督及び選手に対して試合放棄の事実を直接確認し、その事情聴取にあたる。
- (2) 競技上の取り扱い
剣道試合・審判規則第31条(棄権)、細則28条に則り以下の通り処理する。
 - ① 試合を放棄した者は負けとし、その後試合に出場することができない。
 - ② 個人戦においては、相手に2本を与えて負けとする。既得本数は認めない。
 - ③ 団体戦においては、相手チームに5勝10本を与えて負けとし、既得本数は認めない。
(リーグ戦においてはそのリーグすべての試合を、相手チームに5勝10本を与えて負けとし、既得本数、既得権は認めない。)**補足**：団体戦においては、チームとして試合放棄した場合とチーム内の1選手が試合放棄した場合があり得るが、ともに上記③のとおり処置する。
- (3) 試合放棄した個人または団体(監督も含め)に対する事後の指導措置
(公財) 全国高体連剣道専門部長は、副部長・委員長と協議し当該者に対し指導を講ずる。その結果を全国専門委員会に報告する。
付記：各都道府県の大会における試合放棄は、各都道府県高体連及び剣道専門部に一任する。その結果を(公財) 全国高体連剣道専門部長に報告する。

(令和3年5月3日一部改定)

令和3年度

公益財団法人 全国高等学校体育連盟剣道専門部 努力目標

1. 指導方針

剣道の理念をより深く認識し、心気力一致の剣道を目指す。

- ◎ 正しい心で稽古も試合もするよう指導する。
- ① 望ましい指導者のあり方について研鑽を積む。
(指導者に対する各種の意見に対しては耳を傾け研鑽の材料とする。)
- ② 真の有効打突を求め、その指導に徹する。
(気剣体一致の打突を常に念頭に置き指導する。)
- ③ 正しい鏝競り合いを徹底する。
正しい鏝競り合いとして以下に示す内容を徹底して指導する。
 - ア 手元が上った拳競り合いにならないようにし、手元を下げて相互に鏝元と鏝元を合わせて竹刀を交差させる。
(このことを試合者同士が相互に努力して行うことを前提とさせる。)
 - イ 鏝元で竹刀の表鏝を交差させる。
(竹刀は右傾前方に傾ける。)
 - ウ 瞬間的に裏交差はあり得るが、直後に表鏝側での交差に直さなければならない。
(先に裏交差した者や右拳を体の中心より左側において鏝競り合いをする者は反則の対象となることも指導する。)
 - エ 鏝競り合いは、相互に鏝元で圧力をかけ合っている状態とする。
(相手の力を故意に吸収して体を密着させる行為は反則の対象となることも指導する。)
- ④ 試合時間の大半を「鏝競り合いに費やす試合展開」ではなく、「間合いを取り、対峙して攻め合う試合展開」になるように指導する。
(お互いに分かれて鏝競り合いを解消する場合は、右足前の中段の構えを基準として呼吸を合わせ潔く剣先の触れない位置まで間合いを切ることを指導する。)
- ⑤ 公明正大に試合するように指導する。
(攻めもなく打突することもなく、構えて即、深い間合いに入ったり、鏝競り合いに持ちこむ試合行動はさせない。)
- ⑥ 安全に留意した稽古・試合を行うよう指導を強める。
(先細竹刀の使用、竹の肉厚を薄く削る等、危険と思われる形状の竹刀の使用を止めさせる。)
(危険と思われる突きは止めさせる)

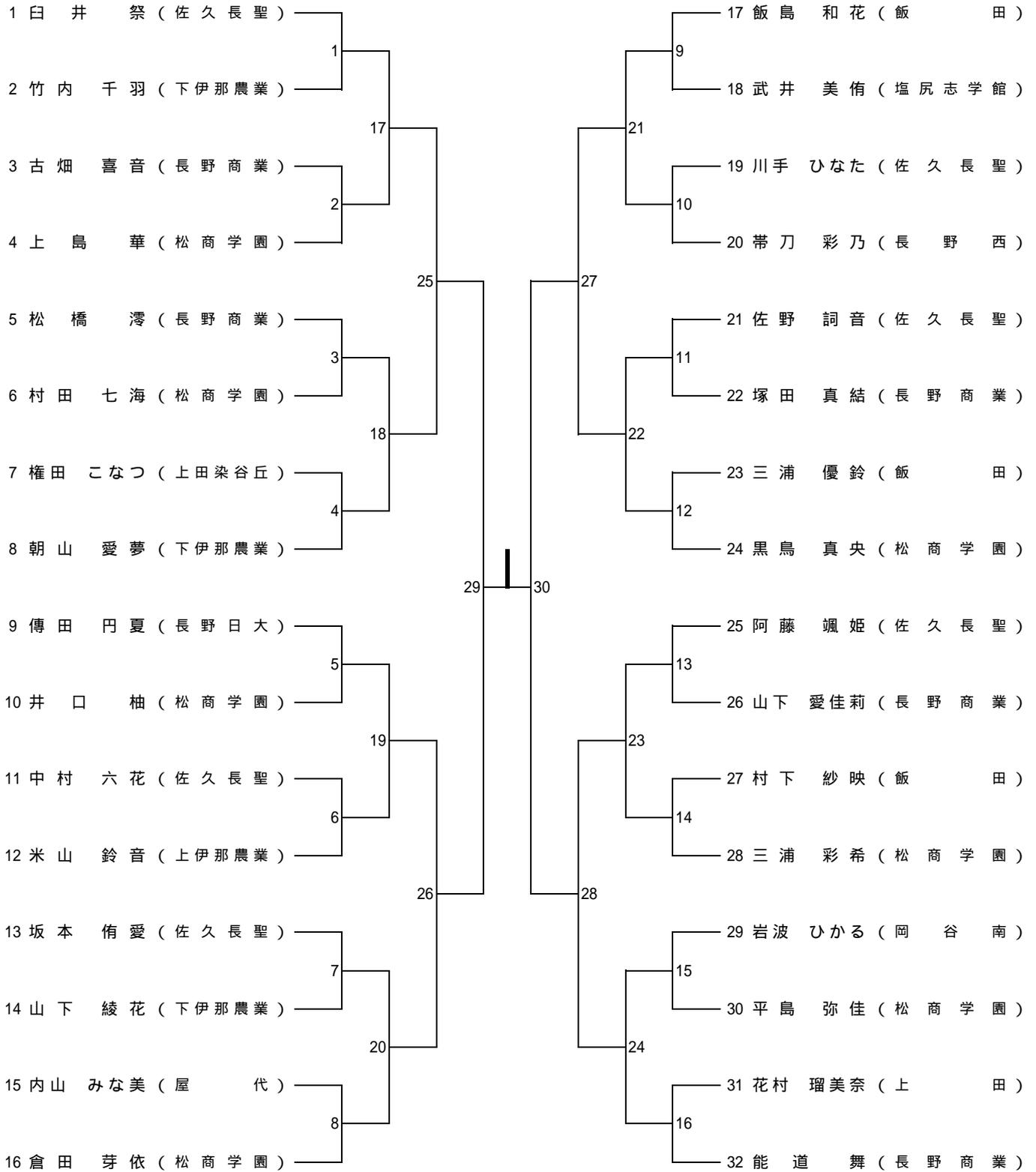
2. 審判員留意事項

- ◎ 正しい剣道が継続され、正しく豊かな心が育つよう、公正かつ厳正に審判する。
- ① 有効打突の判定を誤らないようにする。
(引き技・左胴の見誤りをなくする。技の違いと錬度に応じた打突の見極めをする。)
 - ② 申し合わせ事項にある「正しい鍔競り合い」の内容を正確に把握し、不当な鍔競り合いの「反則」を見逃さないようにする。
(反則と見なした時点で主審は試合を中止し合議をかける。)
 - ③ 正しい鍔競り合いが10秒程度続いた場合、安易に「分かれ」をかけず、原則的にいづれか一方に時間空費の反則をとる。
(10秒の時間感覚を日常より身につける努力をする。)
(その他鍔競り合いにおける措置は、別紙「鍔競り合い改善の補足事項（平成22年5月3日決定）」による。)
 - ④ 一時中止要請に対する処理を適切に行う。
(不適切なものは「反則」にする)
 - ⑤ 場外反則のとりかたを正確にできるように努力する。
(「場外」と「押し出し・突き出し」の判定を正確に行う)
(「止め」を宣言する時期を適切なものにする)
 - ⑥ 危険な突きは反則とする。
(有効打突とする意志のない危険な突き、例えば、相手の場外反則をねらって突いたもの、あるいは引き技を出した相手に残心をとらせないで相手の有効打突を消すことをねらって突いたものなどを反則とする)

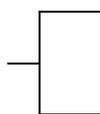
(平成4年5月25日 制定)

(平成22年5月3日一部改定)

女子個人



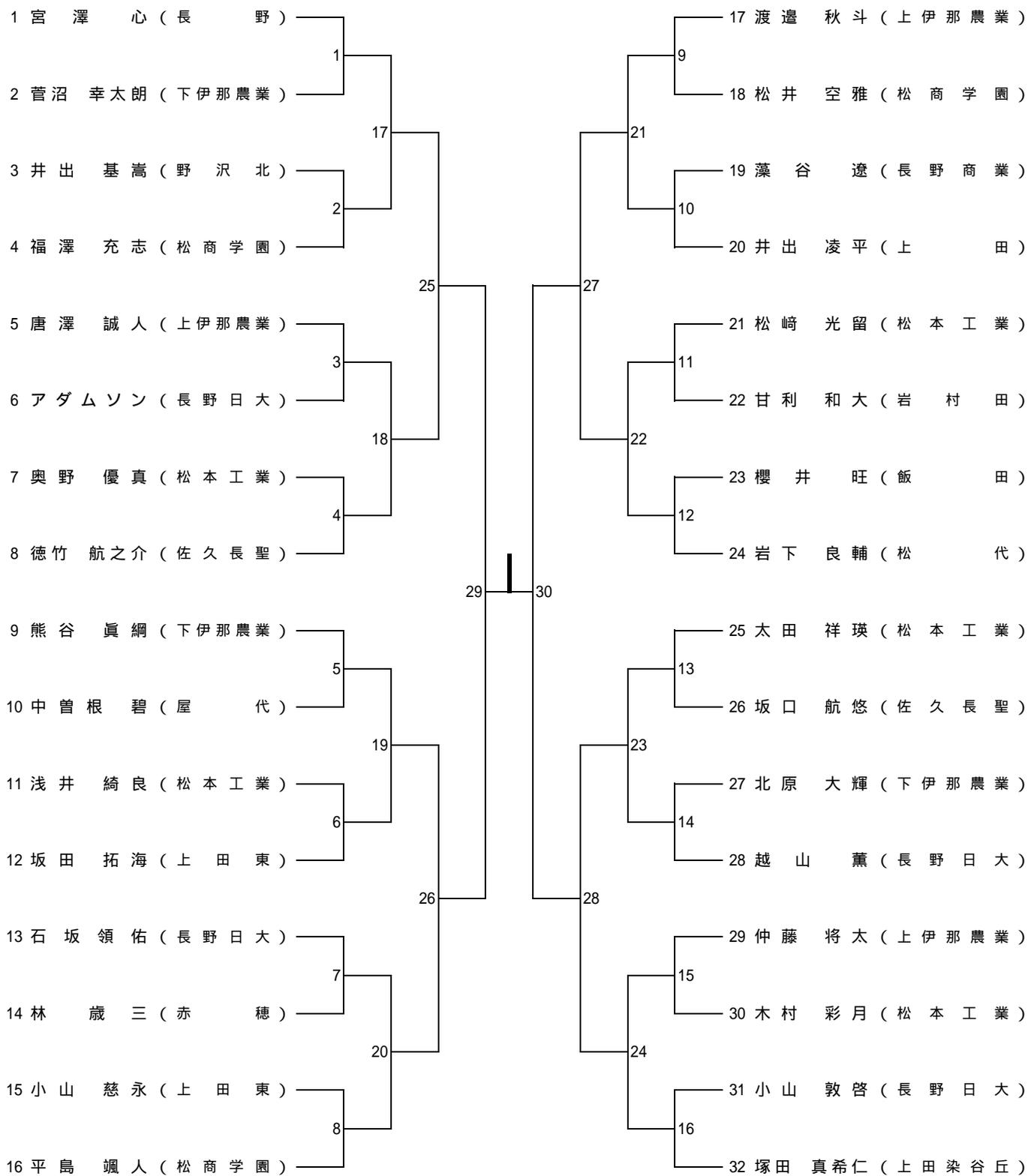
三位決定戦



()

()

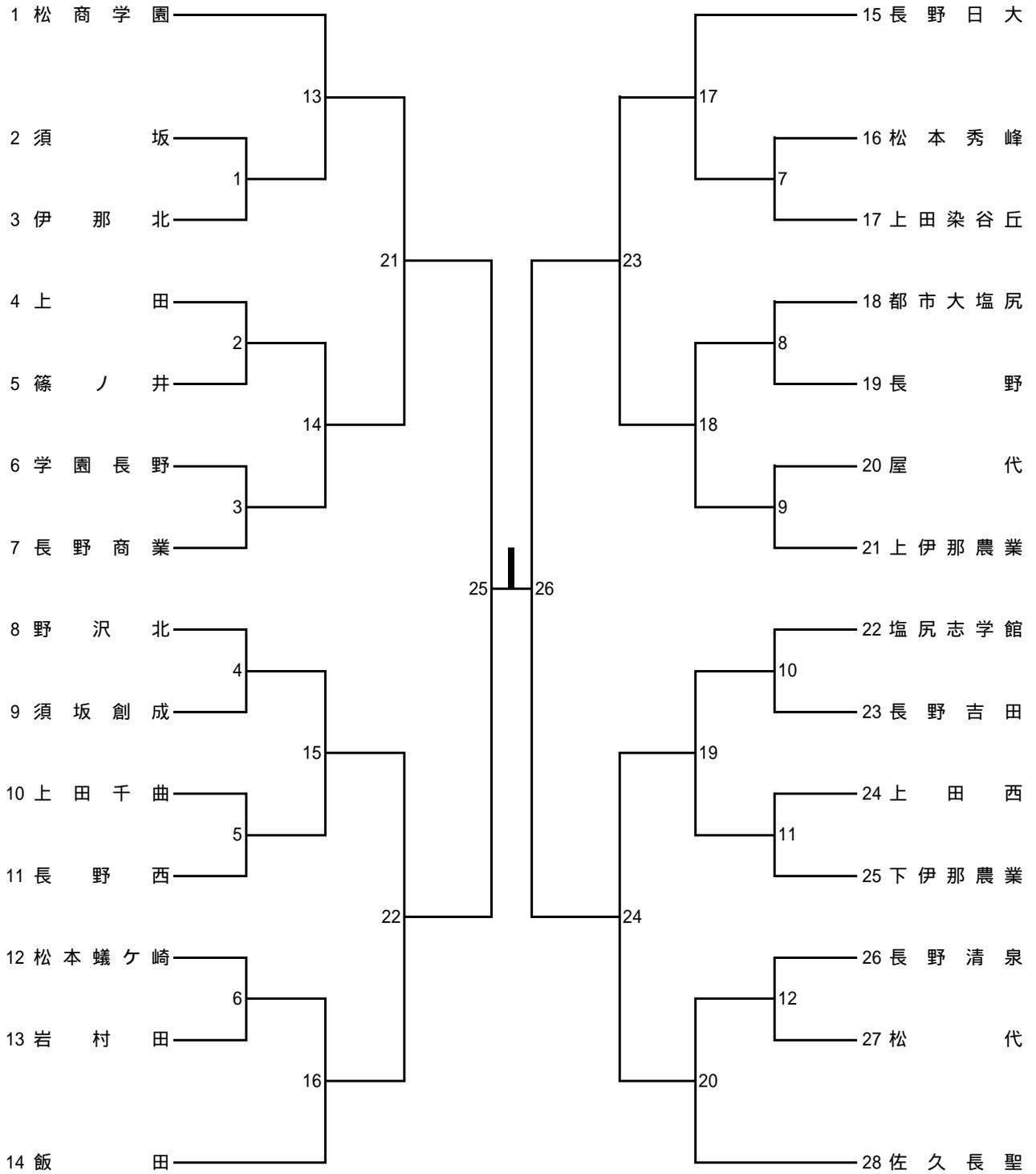
男子個人



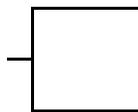
三位決定戦



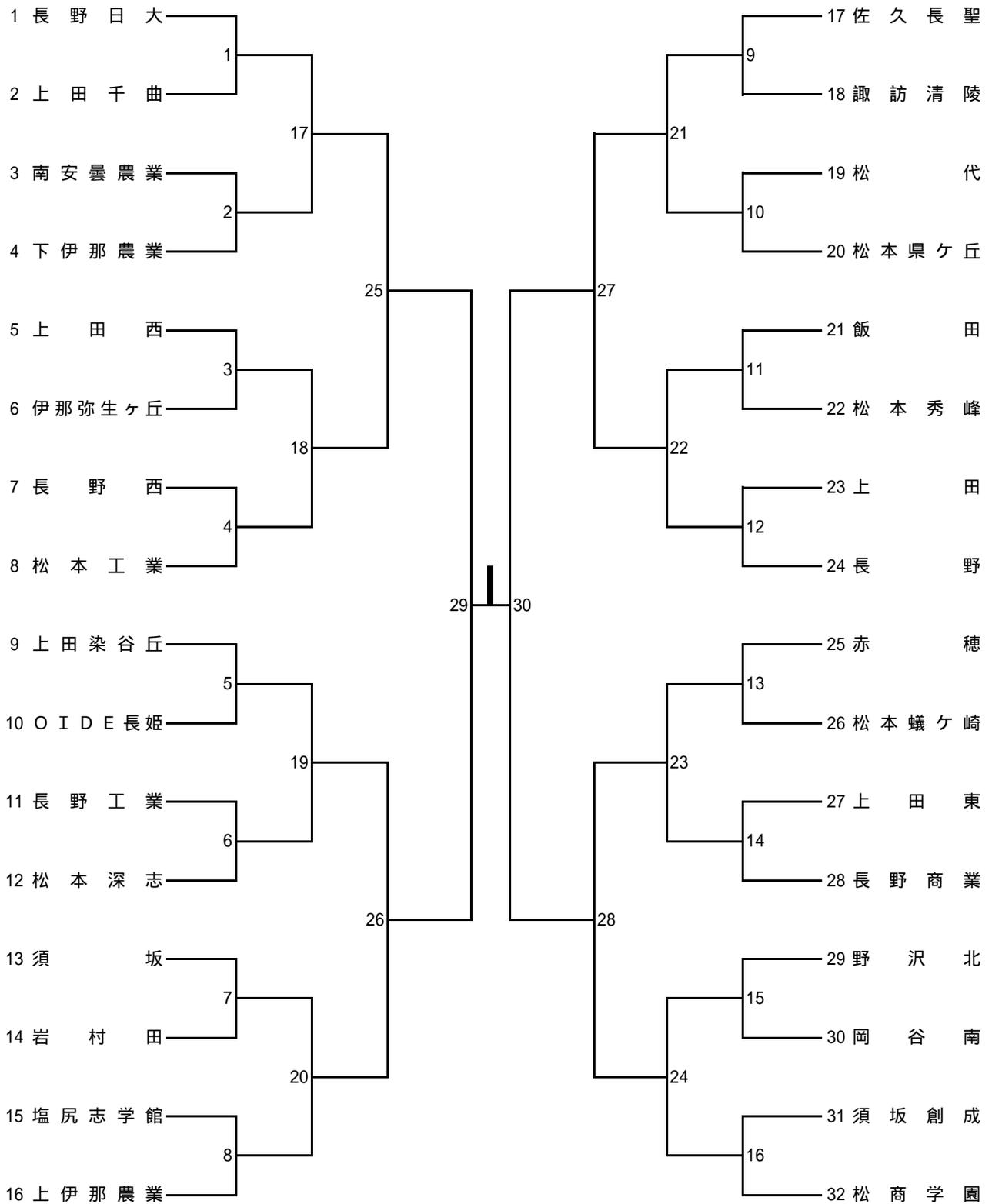
女子団体戦



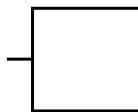
三位決定戦



男子団体戦



三位決定戦



令和3年度 長野県高等学校総合体育大会剣道競技会参加選手名簿

女子団体(北信地区)

順位	学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	補員	補員
1	長野日大	伊藤	松本	山松	小島	傳田	田中	和田
2	長野商業	古畑	塚田	松橋	山下	能道	船崎	小山
3	長野西	武井	寺澤	中村	下条	帯刀	内山	小林
4	長野清泉	水崎	廣岡	山岸	青木	花小久保	青木	心宮下
5	須坂	小林	飯沼	星野	毛利	佐藤	五明	
6	松代	戸矢	崎椎	名永	江滝	沢金	井	
7	長野	酒井	荻原	若林	小島	近藤	木村	青柳
8	篠ノ井	若林	山城	島田	中澤	笠原	渡辺	
9	学園長野	足立	宮岡	宮坂	栗林	大田		
9	屋代	村田	瀧澤	柳沢	沢内	山		
9	須坂創成	北澤	東方	高橋				
9	長野吉田	山田	倉島	星澤				

女子団体(東信地区)

順位	学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	補員	補員
1	佐久長聖	佐野	高山	中村	阿藤	臼井	宮下	坂本
2	野沢北	瀬下	山浦	古清水	傳村	三辻	高柳	
3	上田	花村	菊池	八巻	石田	篠子	南山	
4	上田染谷丘	櫻井	鶴巻	上條	権田	成澤	宮下	
5	岩村田	笹木	浅沼	羽毛田	岩	有井		
6	上田西	大澤	小松	原齊	藤笠	原柳	沢高	橋東福寺
7	上田千曲	塚原	岡本	浦上	柳澤	根津		

女子団体(南信地区)

順位	学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	補員	補員
1	飯田	飯島	村下	叶谷	碧三	浦叶	谷望	
2	上伊那農業	伊藤	守屋	米山	金井	飯塚		
3	下伊那農業	朝山	島	竹内	坂巻	山下		
4	伊那北	高坂	加藤	渡邊				

女子団体(中信地区)

順位	学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	補員	補員
1	松商学園	三浦	上島	黒鳥	山本	倉田	芽倉	田小平
2	塩尻志学館	降旗	増田	武井	愛高	木武	井美	
3	都市大塩尻	塩原	松田	北澤	大庭	島	井川	今關
4	松本蟻ヶ崎	野口	清水	美堀	江清	水萌		
5	松本秀峰	中村	沖	園原	高坂			

令和3年度 長野県高等学校総合体育大会剣道競技会参加選手名簿

男子団体(北信地区)

順位	学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	補員	補員
1	長野日大	宮下	小山	アダムソン	越山	宮本	石坂	小島
2	長野野小	林	中澤	宮澤	大和	百瀬	大草	深澤
3	長野商業	藻谷	松岡	西澤	宮澤	星川	南沢	田中
4	須坂北	澤波	岸黒	岩	小山	滝澤	本村	外谷
5	松代川	島小	林岩	下久	保田	青木	宮澤	岩下
6	長野工業	吉池	帯刀	徳永	由池	宮尾	金子	八橋
7	長野西	安田	下田	片山	山岸	刀根	川須	藤
8	須坂創成	山崎	小林	駒村	大森	淀		

男子団体(東信地区)

順位	学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	補員	補員
1	佐久長聖	黒岩	小平	柳澤	坂口	徳竹	半田	柳澤
2	上田染谷丘	櫻井	五十嵐	宇都宮	内藤	塚田	若林	
3	上田西	笠原	三橋	五十嵐	関大	関啓	大平	土屋
4	野沢北	上野	今井	千住	成澤	井出	柳沢	小池
5	岩村田	井出	高安	甘利	青木	浩小	泉青	木健
6	上田東	伊藤	土方	坂田	小山	遠田	廣田	佐藤
7	上田天	野森	瀧澤	塩川	川井	出宮	下邑	田
8	上田千曲	武井	和田	白石	石井	清水		

男子団体(南信地区)

順位	学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	補員	補員
1	上伊那農業	稲垣	仲藤	小林	唐澤	渡邊	花井	石川
2	赤穂	宮島	埋橋	林	中島	小林	大	小林
3	飯田	櫻井	旺櫻	井優	宮内	宇佐美	神原	下岡
4	下伊那農業	仲川	北原	熊谷	眞水	野後	藤菅	沼熊
5	岡谷南	馬場	竹原	今泉	宮下	奥山	赤木	藤沢
6	伊那弥生ヶ丘	北原	三澤	小町	谷角			
7	O I D E長姫	原	小椋	平島	金田	三石	梶	佐々木
8	諏訪清陵	吉池	細田	丸山	土田			

男子団体(中信地区)

順位	学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	補員	補員
1	松商学園	赤羽	柳澤	福澤	下条	平島	高山	寺澤
2	松本工業	松崎	太田	奥野	木村	浅井	唐沢	沢田
3	松本深志	小高	加藤	小池	北原	坂井	堰免	蒲生
4	松本県ヶ丘	川合	坂巻	田中	友廣	木幡	百瀬	北原
5	南安曇農業	樽沼	千國	井上	浅川	宮城		
6	松本秀峰	小口	茂木	笹原	萩元	竹内		
7	松本蟻ヶ崎	津田	飯森	荻野	水谷	鈴木	内藤	
8	塩尻志学館	落合	平林	窪田	神戸	清水		

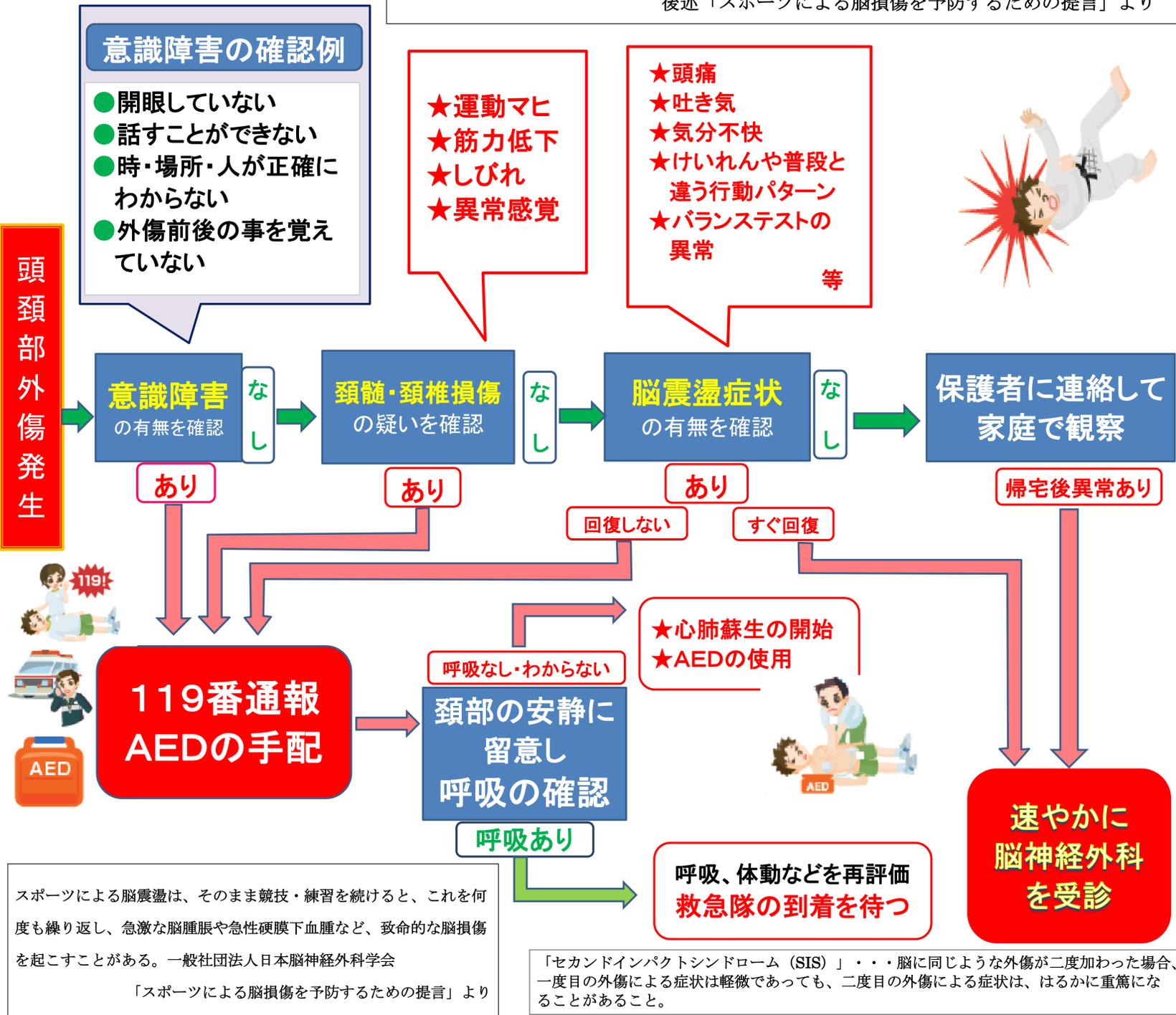
注意！

- 頭頸部や顔面に強い衝撃を受けた時は
- ◇安静にし、すぐに専門医の診察を!
- ◇本人が「大丈夫」と言っても競技に復帰させない!

※意識があっても生命にかかわる場合があります

頭頸部外傷事故発生時の対応フローチャート

スポーツによる脳震盪は、意識障害や健忘がなく、頭痛や気分不良などだけのこともある。
後述「スポーツによる脳損傷を予防するための提言」より



スポーツによる脳震盪は、そのまま競技・練習を続けると、これを何度も繰り返し、急激な脳腫脹や急性硬膜下血腫など、致命的な脳損傷を起こすことがある。一般社団法人日本脳神経外科学会
「スポーツによる脳損傷を予防するための提言」より

「セカンドインパクトシンドローム (SIS)」・・・脳に同じような外傷が二度加わった場合、一度目の外傷による症状は軽微であっても、二度目の外傷による症状は、はるかに重篤になることがあること。

フローチャートは、独立行政法人日本スポーツ振興センター『スポーツ事故防止ハンドブック』より
監修:長野県日体協公認スポーツドクター協議会
作成:長野県教育委員会事務局スポーツ課学校体育係

「あたま」や「かお」をつよくぶつけたときには、
すぐに先生につたえよう!
むりをしてうごかずに、そのばで休んでいよう!

参加者確認票（兼 健康チェックシート）役員・審判員・選手用・補助員用

氏名 (学校名) 称号・段位 ・ 段

生年月日 昭 ・ 平 年 月 日 年齢 歳 血液型 RH () 型

住所 〒 連絡先

既往症 なし ・ あり () 緊急連絡先

（大会時の緊急事態に備えて連絡の取れる方の連絡先）

個人情報の取り扱いについて 記入された個人情報は、本連盟が責任をもって管理し、大会運営における緊急時の対応に使用される場合があります。

項目	5・21	5・22	5・23	5・24	5・25	5・26	5・27	5・28	5・29	5・30	5・31	6・1	6・2	6・3	6・4	6・5	6・6
1 検温【平熱】																	
2 体がだるくない																	
3 息苦しさがない																	
4 のどの痛み・せき・たんがない																	
5 鼻水・鼻づまりがない																	
6 頭痛、腹痛がない																	
7 におい、味を感じる																	
8 同居家族に1～7のいずれの症状もみられない																	
9 政府から入国制限等を受けている国、地域等への渡航または当該在住者との濃厚接触がない																	
10 感染が疑われる知人との接触がない																	
11 県外への往来・滞在の有無 有の場合：都道府県名記入	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無	有・無										

【記入上の注意点】 1は体温を記入する。 2～10は○×を記入する。 11はどちらかを○で囲む。

○この票は大会当日持参し、会場入場時に係員に提示、受付時に提出してください。

《県高体連剣道専門部》

A 表

保険会社への報告のための基礎資料となります。
ご記入の上、開催県の専門部にご提出ください。

各校顧問 専門部

No. _____

報告日 令和 年 月

2021年度活動状況報告書

大会名 長野県高体連総合体育大会剣道大会

学校名 _____

顧問名 _____

日 程	エントリー選手	左記以外の選手	マネージャー	教員・職員・外部指導者
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
/				
合 計				

* 日程が重複する場合は、合計日数に算入しない。例) 出発日後、抽選会有一些の場合。

* エントリー選手以外の選手とはエントリーされていない応援・補助員などの部員をさします。

* 選手と応援・補助員の人数が重複しないように注意してください。エントリー選手が試合後、同日に補助員や応援を行った場合はエントリー選手として計算してください。

例) 同一競技日に選手として出場した生徒が、別の生徒の試合の補助員として手伝った

エントリー選手 1名 左記以外 0名

* 団体戦、個人戦が混在する場合、同一競技日の選手人数が重複しないように注意してください。

例) 同一競技日に、個人戦選手5名、団体戦10名、両方参加(重複)した選手3名の場合。

選手数 : $5 + 10 - 3 = 12$ 名となります。 (1日に何試合出場しても、延べ1名のカウントとなります)

各校顧問は、自チーム競技終了日までに専門部に提出すること

会場が複数の場合には競技終了会場にて提出すること

令和3年度 長野県高等学校総合体育大会剣道大会

竹刀点検確認証

下記について、選手の竹刀を監督が確認後にチェックし、適正な竹刀のみ使用させて下さい。

- 1 長さは適正である。(117 cm以内)
- 2 重量は足りている。(男子480 g以上、女子420 g以上)
- 3 先皮先端部最小直径値は適正である。(男子26mm 以上、女子25mm 以上)
- 4 竹刀最小直径(先端より8cm)(男子21mm 以上、女子20mm 以上)
- 5 中結は適正な位置に固定されている。
- 6 竹と竹の間に極端な隙間がない。
- 7 破損やささくれがない。
- 8 滑り止めのついている柄皮を使用していない。
- 9 弦は色が単色で、適正に締められている。
- 10 柄皮には高校名・名前のみが明記されている。
- 11 その他、全日本剣道連盟の規格に外れていない。

本大会出場選手の竹刀に関する上記の項目を確認しました。

(男子 ・ 女子) どちらかに○をしてください。

出場選手 _____ 名 確認竹刀本数 _____ 本

令和3年 ____ 月 ____ 日

学校名 _____

監督氏名 _____ 印

この竹刀点検確認証は当日検量時に提出して下さい。